

水系2級県

3ダム 事前放流運用

黒瀬・玉川・歌仙 氾濫防止へ協定

県は2日、県管理の2級水系のダム3カ所で、河川氾濫を防ぐための事前放流の運用を開始すると発表し

市)で、利水者ら関係者の合意の下、台風シーズン前に協定を結んだ。黒瀬ダムでは、基準降雨量とした24時間370mmを超える雨が予測された場合に、従来の洪水調節容量800万立方メートルに加え、利水容量の740万立方メートル以内で放流し、空き容量を確保する。玉川ダムは24時間300mmかつ6時間240mm、歌仙ダムは3時間120mmを基準降雨量とし、各ダムの調節可能容量の範囲内で放流する。

政府は昨年の台風19号に

よる河川氾濫の被害を踏まえ、事前放流による洪水対策を強化。6月に全国の1級水系のうちダムがある全99水系で、地元自治体や利水団体と運用への協定を結び、自治体管理の2級水系でも調整が進んでいた。県河川課によると、県内の2級水系はほかに多目的ダム4カ所、利水ダム7カ所。2021年の出水期までの運用開始を目指す。うち宇和島市の須賀川、山財阿ダムについては「豪雨被害の経験も踏まえ、9月中旬にも開始できるように急ぎ調整したい」とした。

(伊藤絵美)